

植物防疫講座

虫害編-31

果樹主要害虫の発生動向と防除

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門 生産・流通研究領域

みしろこうじ
三 代 浩 二

はじめに

我が国では亜熱帯果樹から寒冷地果樹まで約 120 種類の果樹が栽培されている（松井ら，2013）。1988～2018 年までの 30 年間で主要果樹（ミカン，リンゴ，ニホンナシ，モモ，ブドウ，カキ，クリ）の結果樹面積は約 45% 減少した。特に露地ミカンでは約 60%，クリは約 50% 減少し，その他の樹種も約 30～40% 減少している（図-1）。2018 年の樹種別の結果樹面積は露地ミカンが最も多い 39,197 ha で主要果樹の 22% を占めている。次いでリンゴが約 20%，ニホンナシやモモが約 6% となっている（農林水産省，2020 a）。その一方でカンキツの‘はるみ’，ブドウの‘シャインマスカット’，クリの‘ぼろたん’等の食味がよく食べやすい品種の栽培面積が増えている（農林水産省，2020 b）。また，熱帯果樹のマンゴーが東京都（果物ナビ，2020）や北海道（農林水産省，2020 b）で，カンキツのエズが岩手県（果物ナビ，2020）で生産される等，栽培される樹種や地域の多様化が進ん

でいる。ここでは果樹を加害する害虫の特徴と，果樹栽培が多様化する中であって樹種をまたいで加害する主要な害虫種の発生状況と防除対策について概説する。

I 果樹の病害虫による被害と害虫の種数

永年作物である果樹は他の作物に比べて病害虫の被害を受けやすく，無農薬での減収率は各樹種で 30～100% に及ぶ。減収率は畑作物が 30% 台にとどまったのに対し，果樹ではリンゴが最も減収率が高く 100% になった事例もあった。その他主要果樹での減収率はおよそ 60～75% となった（日本植物防疫協会，2020 a）。

農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版（日本応用動物昆虫学会，2006）から算出される国内で発生する主要果樹の害虫種数は各樹種でそれぞれ 160～300 種以上記録されており，このうち，防除指針などで防除対象となっている害虫およびそれ以外で防除が必要とされている害虫種はおよそ 1～2 割である（表-1）。特に重要な害虫は農林水産省が指定有害動物として指定し，発生予察事業の

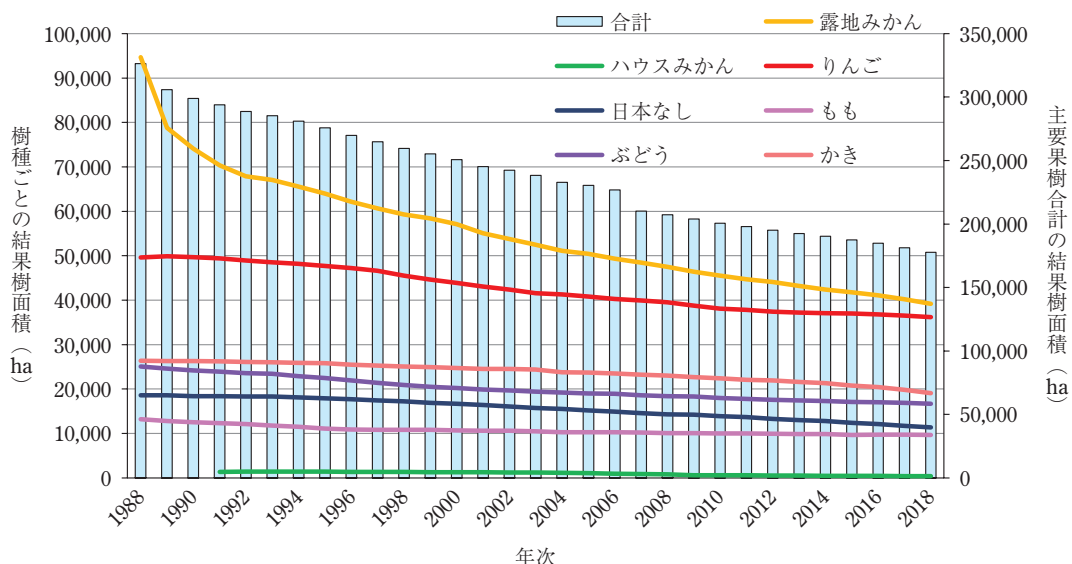


図-1 主な果樹の結果樹面積の推移
農林水産省「作況統計（果樹）」より作図。

Occurrence, Trends and Control of Fruit Major Pests. By Koji MISHIRO

(キーワード：果樹害虫，発生動向，主要害虫，防除対策)